

### ご挨拶

会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年度の第5回日本体操学会が、北海道の道立青年の家(深川市)ゆーすくろにおいて、全館貸し切りという条件のもとに9月17日と18日の2日間開催され、遠隔地のため参加人数が心配されましたが、無事盛会のうちに多くの成果を挙げ終了することができました。この学会大会の企画運営にご尽力頂いた北海道教育大学の古川善夫教授、および大会運営役員と委員の皆様には、この場を借りまして深く感謝と御礼を申し上げます。

この平成17年度の日本体操学会会報 Vol.2 では、第5回大会の内容を要約して会員の皆様にご報告いたしますので、どうぞご覧頂きたいと思っております。(春山 国広)

### 1. 平成17年度日本体操学会総会報告

日本体操学会第5回大会の期間中、平成17年9月17日(土)17:20~17:50に北海道立青年の家「ゆーすくろ」体育館にて会員40名が参加し、総会が開催された。第3期役員も承認され、全ての議題を慎重審議し了承された。詳しくは総会議事録をご覧いただきたい。(吉中 康子)

### 2. 平成16年度「いいからだの日」報告

2000年からスタートした「いいからだの日」も3冊の報告書と2枚のCDによる報告書を作成し、2005年度からは「体操カレンダー」としてWeb上で情報を収集、今後も体操に関わるイベントなどの最新情報を集める企画に変更となった。これまで、報告書の作成にご協力いただきました皆様には心よりお礼申し上げます。

「体操カレンダー」の情報は会員がWebページに書き込む方式となるので、会員からの情報提供が必要となる。2005年度からは「いいからだの日」を発端とした日本体操学会の新たな情報交換の場として、お互いに学びあい、各地の指導者から実践を学ぶ契機としていただけると良いのではないかと考えている。是非ご利用いただきたい。(吉中 康子)

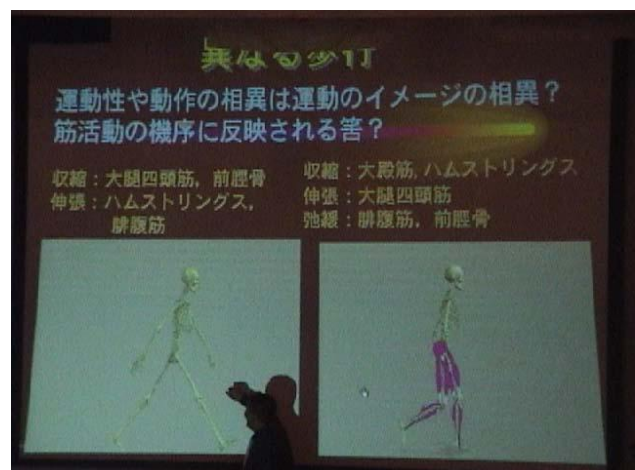
### 3. 日本体操学会第5回大会報告

#### 1. 基調講演「体操とバイオメカニクス」

北星学園大学 佐々木 敏 氏

スキージャンプの国際的研究者である佐々木氏は歩行運動を取り上げ、膝を曲げた歩行と膝を伸ばした歩行における筋活動の機序の違いを明確にした。美しい歩行とされる膝を伸ばした歩行は着床時にハムストリングスと腓腹筋が伸展・収縮されるのに対し、膝をまげた可愛い歩行(大爆笑)は大腿四頭筋とハムストリングスが伸展・収縮することを明らかにした。そして、このような膝を曲げた歩行は「可愛く見せたい」個人のイメージに基づくので、膝を伸ばした歩

行に変えるには大変であるが、ヒップアップし脚を長く見せることになることを強調し、満場の拍手を得た。動きを追求する体操では、動きに関与する筋肉の機序を知ることが科学化の第一歩であるこ

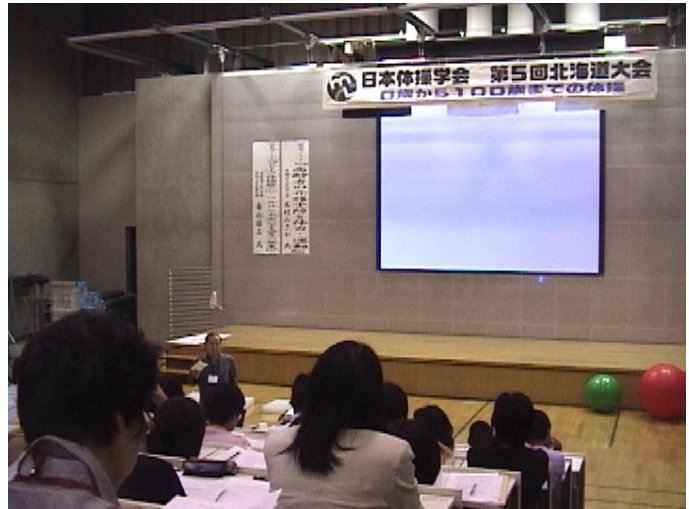


とを再確認することができた基調講演であった。(古川 善夫)

## 2. 研究ノート

京都府立医科大学、木村みさか氏による「介護予防と高齢者の体力・運動」の調査報告が行われた。氏の長年にわたる研究調査結果を基にした報告は、加齢に伴った運動の必要性和、簡単ではあるが継続して運動を実施する事の重要性が強調されていた。

春山氏による「ドイツ国際体操祭(2005)に観る中高年の体操演技の展望」はVTR発表で実施された。2005年の5月14日～20日にベルリンで開催されたドイツ体操祭での中高年中心の発表演技(50プラス)から中心に編集された。どの演技も素朴ではあるが、体操の楽しさ素晴らしさを実感させてくれる演技発表の連続であった。時間の関係で特徴のあるチームに限定した編集であったので、終了後に多くの会員から「もっと多くのチーム発表を観たい」との声が聞かれた。(荒木 達雄)



## 3. ビデオシンポジウム

本大会オリジナルの企画として、二つのセッションによるビデオシンポジウムが行われた。Part1は幼児から大学生までの年齢別に、Part2は様々な対象別に発表が行われた。各発表に対して時間の関係上、その場での質疑応答はできなかったが、懇親会に向けての話題提供となった。

各ビデオ作品は見どころを集めた数分間に編集されており、参加者はビデオ作品の制作者によるコメントを聞きながら視聴し、同時に感想などをメモした。発表終了後にメモを回収し、それを発表者にフィードバックすることで観客の反応を言葉で知ることができた。(後藤 洋子)

## 4. 研究発表

二つの会場で研究発表が10件、実践発表が5件行われた。「動いて学ぶ、学んで動く」体操学会はこの二つの部門が平行して発展することが望まれているので、実践発表を今後充実する必要性を感じた。体操実践のねらいと評価をどのように行うか、つまり実践内容をふりかえり、改善するための記録とその方法を学会で明確にし、実践が素晴らしい研究になる道筋をみんなで明らかにしよう。最後になるが、今回は若手研究者の発表が多く、それに対して多くの質問や建設的意見が、有効にそして友好にかわされた。学会としてはこれら素晴らしい発表に対して奨励賞を設ける時期に来ているかも知れない。なお、発表抄録は体操学会のホームページにアップロードする予定である。(古川 善夫)

## 5. 公開ワークショップ

### (1) 乳幼児部門、中高年部門(多目的ホール)

体操ワークショップの幼児部門は瀬戸口清文氏が、中高年部門は金子嘉徳が担当した。幼児部門では折り紙を飛ばしての遊び、スーパーの袋を使ってのジャグリング運動(お手玉遊び)、氏のオリジナル音楽によるリズム体操、手話体操等々が地域の親子も多数参加する中で行われた。それらの体操を通して瀬戸口氏のモットーである「心豊かに笑い合う(感動・喜びの共有こそが元気の源)」を体験できたように感じた。また、受講された会員の方が「昨今、問題にされている子どもたちの体力低下は、こうして夢中になって遊ぶ体験の積み重ねなしには解決できないということを改めて実感した。」

と感想を述べていたが、私自身もそのように強く感じた。

中高年部門では、今話題になっている食育との連携を考えた「ベジフル体操」、ペットボトル・キャップを袋の中に入れた大型お手玉「キャップバック」での運動を行った。「ベジフル体操」は「いろいろな果物や野菜を食べましょう」という曲に90cm長の棒を使っての体操である。また「キャップバック」では、一人、ペアー、グループとなって体操の基本的な動きや遊びをした。「ベジフル体操」については、楽しくやれたというご意見と、高齢者には少しハードではないかという感想もあった。今後、体操と食育は健康づくりの中で重要になると思われるので、皆様のご意見をいろいろ頂戴して内容を検討したい。(金子 嘉徳)

## (2) 女性部門、組立体操部門(体育館)

今回の大会を締めくくる内容として、最終日の午後の公開ワークショップが体育室で行われた。初めに講師に立たれたのは社会体育の現場で活躍し、今大会では特に女性のライフ・ステージに応じた体操の指導法の紹介で多くの参加者から関心を寄せられた湯澤きよみ氏である。氏はこの日、ほど良い緊張の組み合わせで楽しんだタオル体操とつい笑顔になってはつらつと動いたペアの動きなどを提供された。いつもの様に流れのある指導で多様な刺激を心地よく与えてくれ、リラクゼーションで氏のムードは会場をやさしく包みこみ終了した。

次に登場したのは、日本体育大学の荒木達雄氏と三宅良輔氏による組立体操の対象別・段階別の指導法の紹介であった。バランス感覚や身体の緊張を律動的な動きと共に体験し、組体操指導や躊躇しがちな男性が実施する体操、或いは男女で体操する方法の検討に勇気をもたらした人も多いのではないだろうか。

(南 明恵美)



## 6. 懇親会

多目的ホールで行なわれた懇親会は、北海道地区限定のおいしいビール(会館側からの好意で準備していただけた)をはじめ、お刺身・ソーセージ・とうもろこし・ジャガイモ料理など北海道の味覚満載の和やかな談笑の場となった。大会テーマ「0歳から100歳までの体操」にふさわしく、会場には2歳から80歳代までの楽しい顔が揃い、終始暖かい雰囲気の中、会員の皆さんとの交流を図る良い機会になった。(大島林子)

## 4. 日本体操学会第6回大会のご案内

表記の大会が下記の通り開催されることになった。多数の皆様のご参加をお願いする次第である。

期日：平成18年9月9日(土)、10日(日)

場所：名古屋芸術大学「師勝」キャンパス

テーマ：音・リズムと動き・からだの関わり

第6回大会は外部講師の方をお招きしたり、体操音楽集などでお馴染みの松山氏に後登壇いただき、体操と繋がりの深い「音楽やリズム」と「動きやからだ」の関係について考える場を提供する予定である。大会の概略は日本体操学会のホームページをご覧ください。(後藤 洋子)